

# えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

## 地区別町政懇談会での質問について、その見解を含めて説明をいたします。

1月29日から31日までの3日間、町内9地区で町政懇談会が行われました。

教育関係では、次のことが質問・要望として出席者から出されました。教育委員会としての考え方を次のように説明しました。

**Q1 えりも中学校の2年生は40人近くおり、何とか2学級にできないのだろうか。教室も狭く生徒も大変だ。また、えりも高校の町単費で採用している1名を中学校に配置できないのか(近笛地区、歌別地区)**

A1 状況と考えを示します。

### ○義務と高校の学級編制の違い

・学級編制は、義務教育は4月当初、児童生徒数の道教委への報告により決まります。現行の法律では1学級40人学級となっています。

・一方、高校は間口により教員数が定まり、生徒募集があります。ただし、生徒数が少なくなると間口維持が困難となる事態が生まれて間口減となり、教員数が大幅に減ります。

### ○学級担任制と教科担任制について

・小学校は主に一人の先生が全ての教科を指導する学級担任制ですが、中学校は教科別に指導する



**数学、理科、英語等の教科を2つのクラスに分けて少人数指導、習熟度別指導を行っています。**

教科担任制で、高校も同様です。そのため、教員配置は小学校に比べ中・高は難しい課題が出ます。

### ○中学校への対応について

・平成28年度の学級編制に当たって29年1月に学校と教育委員会で協議しました。その結果、教科担任制で教員の授業時数増があり難しいという結論に達し、道教委の制度を活用して学力、生徒指導の両面から検討し考えました。

・なお、2学級するには、町単独の費用で教員を複数配置(少なくとも英語、数学等)が必要となり、町財政上、厳しい状況にあります。

### ○道教委の加配制度の活用を図る

・学力向上を主な目的として指導方法の工夫を図る制度で1名、小学校と連携した創意工夫や生徒指導を図る制度で1名の計画が認められ、さらに種別の異なる3学級の特別支援学級が設置されて加配1名の計3名が確保されました。

### ○第2学年への配慮について

・現2年生については、生徒数も多いことから、学力向上では教科内クラス分けとして英語、数学、理科等、多くの教科で2クラスに分ける学力向上

策を取って進めています。また、生徒指導では、特別に2名の副担任を配置し、学級経営の強化を図っています。教室も少し広くしました。

### ○えりも高校の町単費教員配置の経緯について

・昭和62年、全日制普通科2間口(1学年2学級)を確保するための施策として町単独で2名の教員を配置しました。

・その後、一人一人の進路実現のため、文部科学省に申請し2名が配置されて、現在多様な46単位以上の教科の開設が認められ進めています。

・したがって、4名の教員加配が切れると文科省への計画申請も難しいことや、今後、えりも高校の存続にかかわる重要な局面になることが予想されます。このようなことから、ご意見は理解するものの難しい状況があります。

### ○ご意見にも真摯に耳を傾け、今後もよりよい方法を探ります

・今後も生徒数の減少が予想されることから、同様の課題が生まれます。そのため、どのような方法がよいのかを、今回の意見を真摯に受け止め、よりよい教育活動の充実に努めてまいります。

**Q2 スケートリンクの滑る期間が少ない。別の場所に造成して期間が長くできないか。**

(大和・和里地区)

A2 状況を説明します。

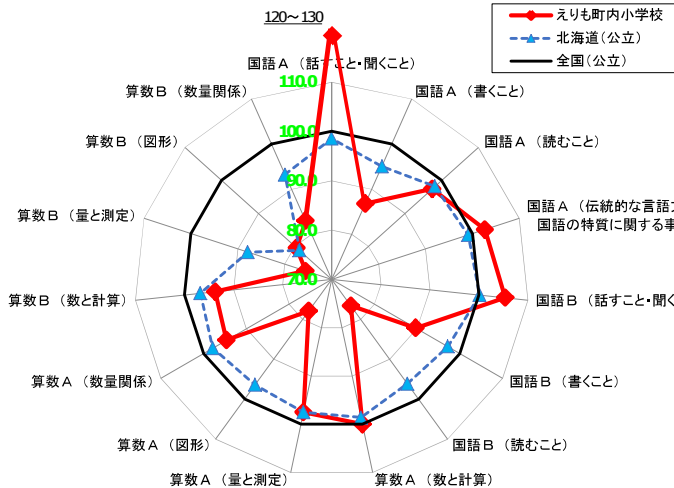
・近年は暖気や積雪等の気象条件から凍結が十分でなく、昔に比べて造成が難しい状況にあります。  
・えりもでは他の場所でも同様の課題があります。  
・浦河のようなリンク造成には多額の費用がかかるため、現状の場所でのリンクづくりの工夫に努めます。

・今年は1か月開設でき、延べ528名の利用がありました。

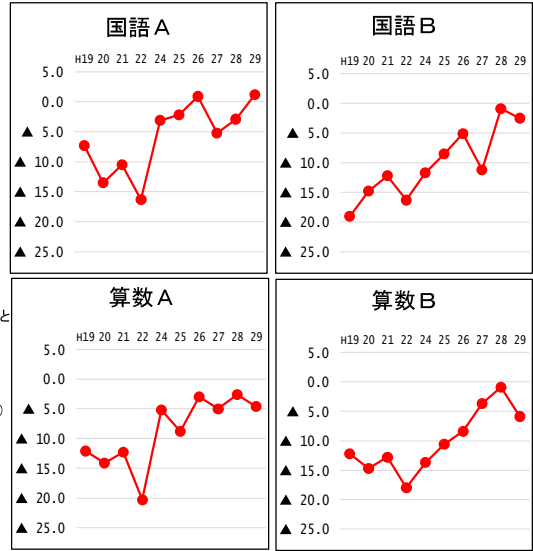
# ■えりも町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:5校、児童数:38人)

## 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

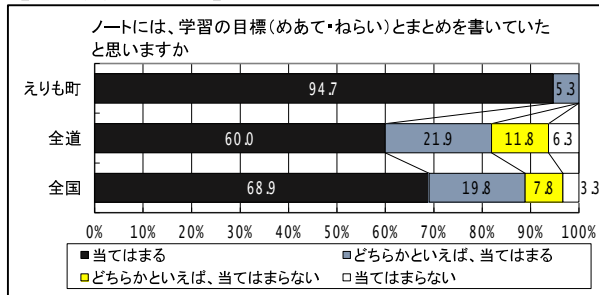


## 【平均正答率の全国との差の推移】

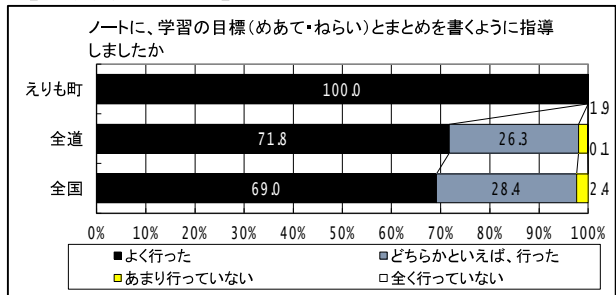


※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

## 【児童質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。</li> <li>○ 算数Aでは、「数と計算」で全国と同様であり、「量と測定」で全道と同様である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町の学力向上策として、全国学力・学習状況調査の分析を踏まえたPDCAサイクルに基づく授業改善を図ったことにより、国語Aにおいて、前年度と比較して、全国の平均正答率との差が縮まり、特に、国語Aの「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bの「話すこと・聞くこと」で全国を上回ったと考えられる。</li> </ul>
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての小学校で、えりも町授業改善4つの方策を踏まえ、ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導するなど、授業改善を推進したことにより、「ノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた」と回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	

## 【えりも町の学力向上策】

- ◎ えりも町授業改善4つの方策(学習規律の確立、板書とノートの連動、まとめの位置付け、家庭学習の習慣化)による授業改善
- ◎ 全国学力・学習状況調査の分析を踏まえたPDCAサイクルに基づく授業改善
- ◎ 「続・凡事徹底」による数値目標を形骸化しない日常の授業における指導の充実
- ◎ 実物投影機等ICT機器の日常的な活用による授業改善
- ◎ 小・中・高の連携・接続を意識したキャリア教育の充実